


<p>防火標語</p> <p>その火事を 防ぐあなたに 金メダル</p>		<p>発行所 公益財団法人長野県消防協会 (長野県庁東庁舎内)</p> <p>〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2 TEL (026) 232-5319</p> <p>編集発行人 武井 郁郎</p>
---	--	---

長野県消防協会 <http://naganoken-syouboukyoukai.com/>

長野県消防関係 殉職者慰霊祭

消防長会との共催による令和2年度長野県消防関係殉職者慰霊祭を9月4日(金)に長野市花岡平の「殉難消防組員の碑」前において、太田寛県副知事、県危機管理部長、県消防課長、県消防学校長、県消防防災航空センター所長の参列をいただき厳かに行いました。今年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、規模を縮小し行いました。



県女性消防団員 活性化会議

今年度1回目の会議を9月26日(土)に松本市で開催し、新たに会の代表2名の選任を行いました。また、来年2月に予定していた、「長野県女性消防団員活性化会議」については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止とすることに決定しました。



第3回県消防ポンプ操法大会・県消防ラップ吹奏大会あり方検討会

第3回あり方検討会を令和2年10月9日(金)に長野市のホテル犀北館で開催しました。



県下77消防団に對して実施した「県消防ポンプ操法大会・県消防ラップ吹奏大会アンケート調査」の結果に基づき検討を行い、12月の理事会に向けて報告書を作成することとなりました。

長野県消防協会参与会

長野県消防協会参与会を令和2年10月20日(火)に長野市のホテル犀北館において、五十嵐参与会長はじめ10名の参与が出席し開催されました。会議では、県消防協会の近況等について報告しました。



令和2年知事表彰

消防功労者知事表彰は、次の8名が10月13日(火)に表彰されました。

一ノ瀬今朝友

- 元松本市消防団分団長 上沼 隆弘
- 岡谷市消防団副団長 神澤 宏和
- 下諏訪町消防団分団長 鈴木 誠司
- 長野市消防団副団長 田中 敏勝
- 前須坂市消防団団長

令和2年防災功労者 内閣総理大臣表彰

- 森下 敏彦
- 元大鹿村消防団団長 矢ヶ崎宏行
- 元松本市消防団分団長 吉池 昇一
- 前塩尻市消防団団長

テレビスポット CM放送のお知らせ

消防団活動に対する理解と消防団への加入促進を図るため、11月20日(金)〜12月18日(金)までの間、NBS長野放送局でテレビスポットCM放送を放映しますのでご覧ください。(詳細については、長野県消防協会ホームページに掲載しています。)

県消防協会副会長が所属する消防団の活動状況について

自分たちのまちは、自らの手でまもる



松本市消防団

団長 上條 博文

松本市の紹介

松本市は明治40年5月1日に市制を施行し、平成29年には市制施行 110周年を迎えました。西に槍・穂高連峰、東に美ヶ原高原など日本を代表する雄大な山々に囲まれ、豊かな自然環境や、歴史と文化・伝統に恵まれた長野県中南信の基幹都市として発展しています。

松本市消防団の紹介

松本市消防団は、昭和20年8月に発足しました。現在、8ブロック39分団の他、女性部と機能別分団3隊で構成されています。団員数は1949人で、条例定数の2169人を下回っています。



市役所消防隊

おり、団員の確保が課題となつていきます。また、団員のサラリーマン化が進んだ影響により、平日昼間に団員の集結が困難な中心市街地を管轄する中央ブロックを補完するため、新たに平日昼間のみ出動する機能別分団として、市役所職員で構



コロナ禍での新任訓練の様子

松本市消防団の活動

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ポンプ操法大会の中止を始め、各種訓練や行事に大幅な変更が生じました。しかしながら、火災等の災害の発生に備え、各分団にはマスク、手指消毒液、非接触式体温計を配備した上

成する市役所消防隊を創設し、令和2年2月に運用を開始しました。



松本市消防団トレーニングセンターでの訓練の様子

で、必要最小限の人数での点検や訓練の実施を指示し、各ブロックの担当副団長指揮の下に、訓練礼式や放水等の訓練を実施しました。また、令和2年7月豪雨災害の際は、松本市に大雨特別警報が発令されたことから全分団に出動命令を出し、延べ728人の団員が河川の警戒巡視や小河川溢水などの水防活動を行いました。



国宝松本城消防総合訓練

近年は全国各地で大規模な自然災害が発生しています。松本市においても、市内を通る「糸魚川―静岡構造線断層帯」と「境峠・神谷断層帯」は、将来地震が発生する可能性が高いとされており、この地もいつ何時被災地となるかわかりません。これからも、『自分たちのまちは、自らの手でまもる』を意識して、様々な訓練を行い有事に備えて参りたいと思います。

おわりに

若い力で地域を守る消防団活動



原村消防団

団長 清水 昌敏

原村の紹介

原村は、長野県の中央、諏訪盆地の南東に位置し、北と西は茅野市、南は富士見町に接しており、八ヶ岳連峰の阿弥陀岳を頂点として東西に細長い形をしています。八ヶ岳西麓の緩傾斜地、標高900〜1300mには、多くの集落や耕地が広がり住民生活の中心地となっています。一年を通じて降水量は少なく、湿度も低く、夏は落ち着いた避暑地として都会からの人々で賑わっ



原村消防団女性消防団員の操法の様子(令和元年度原村消防ポンプ操法大会(小型ポンプの部)出場時)



春季消防訓練 水防訓練の様子



春季消防訓練 分列行進の様子



原村よいしょまつり ラッパ隊の様子



防災訓練の様子

原村消防団の紹介

昭和22年7月消防団令交付に伴い同9月1日原村消防団発足(300名)、同40年役場職員16名より半常備体制を敷きました。同41年4月近代化を図り4分団

原村消防団の活動

6月初旬行われる村操法大会に向けて、4月に入ると分団毎に操法訓練を開始します。団員は日中仕事があるため、早朝、又は夕方から訓練を開始

ています。冬の寒さは厳しいですが、雪の量は多くなく交通障害を起すことはほとんどありません。また、八ヶ岳山麓の高原地帯で生産される高原野菜はどれも新鮮で、おいしさ抜群。小さな村ですが、夏場のセロリとアネモネの生産量は日本一です。

200名とし現在に至ります。平成23年女性消防団員3人が入団し、現在は女性消防団員は7人でラッパ隊及び本部団員として活動しています。また、全国的に消防団員の高齢化が進む中、原村消防団の平均年齢は31・9歳と若い力で村民の生命・財産を守るため、日夜活動しています。消防設備については、消防ポンプ自動車1台、小型動力ポンプ付積載車が9台という状況で、その他、各分団に山火事用のジェットシューターを整備しています。

し、機械操作やホースの取り扱いについて鍛錬をつみます。その後、村大会を勝ち抜いた分団は、7月の諏訪地区大会へと進みます。平成29年より、女性消防団員も少ない人数ながら男性団員と混成のチームを作り、村ポンプ操法大会・諏訪地区消防ポンプ操法大会で小型ポンプ操法を披露しています。

春には規律・水防訓練を行い、規律から土のうの積み方まで研修を行っています。秋には諏訪広域消防本部との連携訓練を兼ねて消防訓練を行い、ポンプの連結などによる送水訓練を行います。また、各地区で行われる土手焼き作業の際、警戒出動し周囲に散水し火災を未然に防ぎます。秋になると村の総合防災訓練に参加し、救命訓練や救助訓練なども行っ

おわりに

消防団活動は、家族や職場など周りの皆さんの理解がなければできません。また、災害時には、団員本人やその家族も被災者となる中、率先して活動を行わなければならない、団員一人一人に感謝と敬意の気持ちが必要です。また、女性消防団員が増えたことは嬉しい限りです。今後、災害時には男性では気が付かない部分を補填する活動にも期待します。災害の発生が少ない原村ではありますが、油断する事無く今後も継続して日々の訓練を実施し、有事に備えて参りたいと思います。

消防団は仲間づくりも立派な活動!仲間づくりを通じ地域のより細かいところまで気配りができる消防団になれば幸いです。

